

会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	令和４年度第１回 社会教育委員・公民館運営審議会委員 会議		
開催日時	令和４年７月２８日（木）１３：３０～１５：３０		
開催場所	近江八幡市文化会館 ２階 会議室２		
出席者 会 長◎ 副会長○	＜社会教育委員＞ ◎大橋委員 ○中江委員 楠亀委員 葛島委員 小川委員 吉井委員 中野委員 三木委員 重野委員 綿貫委員 高橋委員 ＜説明者・事務局＞ （説明者） 東生涯学習課長 （事務局） 西川教育部長 井上生涯学習課参事 清水生涯学習課主任主事		
次回開催予定日	令和４年１１月頃		
問い合わせ先	所属名・担当者名： 近江八幡市教育委員会事務局生涯学習課 清水 電話番号：０７４８－３６－５５３３ Fax番号：０７４８－３６－５５６５ メールアドレス： 045000@city.omihachiman.lg.jp		
会議記録	発言記録・ 要 約	要約した理由	内容が整理され、記録として残すことに適しているため

事務局	1. 開会 (1) 委嘱状交付 (2) 挨拶 (3) 自己紹介
事務局	2. 各役員について 委員長・副委員長の選任について、大橋委員長・中江副委員長を選任。
事務局	委員長挨拶
委員長	会議出席者の報告 ↓
事務局	議事交代(委員長による議事進行)
委員長	3. 報告・協議事項 (1) 令和4年度近江八幡市教育行政基本方針並びに重点施策について
生涯学習課長	「令和4年度近江八幡市教育行政基本方針並びに重点施策について」説明。
委員長	説明について、意見・質問を求める。
委員	『基本方針3「ふるさと学習」の一層の推進』について、『市立校園』について取組の説明をされている。私立校園の子供たちについては、その近江八幡市からの視点からは、外されている。そのような理解でよいのか。
事務局	質問については学校教育課が取り組む事業ということで、近江八幡市立の学校を所管しているものなので、そういう書き方になっている。
委員	もう一つ前の施策、これも生涯学習課ではないものですが教えてほしい。 「タブレットを効果的に活用した主体的・対話的で深い学び」というふうに括弧つきのフレーズが項目ごとに出てくる。これは文科省が謳った言葉をそのまま落としてあるのかなと推測するけど、ちょっと対話的ではないか。 個人的に不思議な違和感を覚えたから、このフレーズは文科省が全国に格好良く言わなければならないから書いた言葉なのか、と勝手に思ったのですが、ちょっとそれを不思議に思った。
委員	今、委員が言われたことと関連することで、コロナ禍が始まって2020年4月から1年生になった保育園や小学校・中学校の方には、私達が経験してきたことと全然違う生活がそこにある。 そしてもちろんタブレットを使ったような、いろんなコミュニケーションのようなものが、あつという間に進んでいくと思う。 しかし、その弊害で結局私達が今までやってきた、社会教育やそのようなものを保護者はコロナを理由にしながら、当番が回ってくることを嫌がる方もいて、進めることが難しい。
委員	今まではお互いに通園通学しながら現場で楽しくやっていくのが主だったが、それはもう全然駄目なので、このタブレットを使った学習を行うことは、子どもの成長の中で、コミュニケーションという経験だと思う。 今はご飯食べるときに近づいたらダメ、ちょっときつくなると外で遊ぶのもダメで、体育館で大人しく遊ぶとか、先生が抜けて遊ぶとか、そんな事ばかりを孫から聞いた。4年生から上の子はまだ1～2年のときに、コロナ禍前の風習があったが、その下の1年生の子たちは、保育園の時でもほとんどそういうことをやらなくなっている。どうしたら人間らしく、コミュニケーションを取りながら、ということを回復できるのかなと思う。例えば大学に行く一つの目的は、大学で生涯の友達作る

委員	ということもあると考えているけど、それもリモート授業等で難しいようだ。学校教育だけでなく、地域でも同じことだと思う。 それから、課長より今年は読書に重点を置くという話があった。市の図書館ではなし会があり、現状の状況では月 1 回、規模を縮小してやっている。絵本の読み聞かせやお話は、どんなやり方であってもいいわけではない。 八幡小学校のボランティアも保護者の中で、朝の 15 分間の読書会、絵本を読んだりお話したりということがあり、その方たちの本の選び方を聞いたことがある。研修会等に出ておられないので、先生方もボランティアの保護者をマネジメントしてくださる中心の方に研修会を開いてほしい。 「放課後等における子供の居場所作り」ということで、馬淵小学校は今年度から二回、常任委員会の際に教育委員会の方から説明をされたけれども、タイトルから受ける意味合いから言うと、全員対象とか、保護者の意見も十分反映されているか、ちょっと中身を聞くと、見えないというか、予算がないから早い者勝ちやという意見も出た。 本当にそれでいいのかというところ。それと馬淵小学校は、児童が年々少なくなっていて、人のいないところもあるので、そういった一時間程度の居場所作りをお考えになっていると思うけど、十分その地域性とかいうものを調べていただいて、本当にその地域に合った、放課後における子供の居場所づくり、全員対象にはならないと思いますので、お考えいただきたい。
生涯学習課参事	今仰っていただいた地域性を十分に考えなければならないのは、本当におっしゃる通りと私も思っている。数年前にこの計画が策定され、その中にはいくつか実際実施されているところも放課後子ども教室という形でされたが、それを数年前に市内の全ての学校で取り組んでいけたらということで、計画が立っていた。実は以前から放課後子ども教室をされているところについては形が出来上がっておったので、問題なく進めたが、改めて放課後子ども教室ということでお声かけさせてもらうと、本当におっしゃったようにたくさんの課題が、いくつも見えてきているというのが実情である。学校の規模によっても、子どもが少ないところで放課後子供教室に参加する子としない子が出ることで、参加しない子も下校の安全はどうなのかとかいうお声もいただいているので、その辺は十分検討しなければと考える。
委員	子ども・若者地域協議会を設置するという話があったが、それや少年センターあすくる HAR は、今現在稼働しているのか。 具体的にはどんなことをしているのか。
生涯学習課長	青少年の健全育成を支える活動や立ち直り支援の充実ということで少年センターあすくる HAR というのは以前から取組を進めている。近江八幡・竜王少年センターで、非行少年の立ち直り支援をするという部分がある。 最近では学校の不登校とか、就労への支援とか、いろんなところであすくる HAR で支援をしていただいている。 近江八幡市と竜王町の方から、事業をお願いするというので、職員の体制としては、教職員の OB とか行政職 OB、警察 OB というような形の職員がいる。あすくる HAR の方では教職員の OB が支援しております。 そしてまた現職の教職員の指導主事も 1 名派遣をして、活動している。
委員	そういう支援するための経験とか、ある程度の研修会とかはあるのか。 資格みたいなものを持ってやっているのか。
副委員長	研修会等には参加されている。保護司会や警察 OB、校長経験のある方、あと主に中学校の先生が、不登校の子の家庭訪問もするなど、指導や就労支援を行っている。もしくは途中で不登校になったりした方が、教育過程で教わらない勉強を頑張った結果、高校に行ったり仕事に行ったりした人もいます。

生涯学習課長	生徒が学校行けないとかいうときにそういう活動をしていただいている。
委員	市内に何人ぐらい職員がいるか。
生涯学習課長	10 人程度、職員の中に臨床心理士 2 名を含んでいる。
副委員長	昔は合併前で近江八幡・安土・竜王少年センターだったのでそれぞれの頭文字をとって HAR という。
生涯学習課長	子ども・若者育成支援ネットワークの整備を充実することで、予てから子ども・若者のニートとか引きこもり、そしてまたそういう不登校等、課題があり、この年齢の対象が「就学前から 39 歳まで」という年齢を対象にし、特に引きこもり・ニートの方とかそういった方も社会に出てもらうように支援をするというような取組をしているところで、近江八幡市では、6 月 8 日に子供・若者育成支援地域協議会の立ち上げをしたところである。 そして、相談する窓口ということで、生涯学習課が実際の相談を受けて、必要で適正な支援先に繋げるという役割で、4 月から設置をして、この 7 月の市広報にて広く周知をした。 さらに市広報にプラスして周知回覧を自治会の方に配布して、相談窓口がありますということで、重ねて周知をした。 これについては、現在県内全ての市町村に相談窓口があるというわけではなく、今までは滋賀県・大津市・彦根市・米原市・高島市の一県四市が取組を進めており、近江八幡市は五番目ということで、協議会の立ち上げが始まった。まだスタートしたばかりだが、引きこもり・ニート・不登校の方も支援をしていくということで今進めている。
委員	あすくる HAR の支援対象は、問題を起こした子になるのか。
生涯学習課長	そもそも元は非行少年などが対象でしたが、現在、実際に対象となっているのが、今は発達に課題があるとか、そういう子供たちが社会に出ていけないという部分もあるので、その辺も 20 歳まで少年センターの支援年齢になっているのでそういう方も対象として支援をされているというところもある。
委員	それは少年側から申し入れがあった方を支援するのか、学校が中心的に問題のある子をケアするよう提案するのか。
生涯学習課長	例えば犯罪を起こして、そして少年院等から出所された方を支援するのと、高校入学してから不登校になって退学をしなければならないとか、そういうところで迷っている方などの支援がある。 学校から情報提供もあり、家庭からだとはやはり保護者の方とかからの通報等、家庭でも学校でも全て相談は OK するという形でしている。 相談員に 4 月から来てもらっている。子ども・若者育成支援事業についてはこの 4 月から立ち上げたところなので、まだまだ周知の段階というところである。
委員長	他にご意見、ご質問ある方は。
委員	社会教育であるので、学校のことは学校に任せて高齢者の学びに力を入れるべきと考える。 八幡には元気な高齢者ものすごく多いのに、定年退職後、社会との接点がなくて何もできないことが多い。そういうことを社会教育委員として議論できるように知恵を出し合っていければよい。
生涯学習課長	ご提案いただいた件については、今年度は部会という形で、活動をお願いします。その中で、いろいろ議論いただいて、進めていきたいなと考えているので、どうぞ

	よろしく願いしたい。 (2) 令和3年度近江八幡市生涯学習推進実施計画進捗管理について 「令和3年度近江八幡市生涯学習推進実施計画進捗管理について」説明。
事務局	
委員長	説明について、意見・質問を求めるが、ちょっと私の方から意見をしたい。達成度の評価は基準が、担当課の主観で決められているため、第三者からは非常にわかりにくい。数値化できないものについては、無理に数値化する必要はなく、「できたか、できてないか」でもよいのではないかと。
事務局	前計画に基づく事業について進捗管理を行っていたが、ご指摘については委員長のおっしゃる通りだと考えている。 また当年度につきましても、1が一番グレードが高く、4が一番低いという設定になっているが、これについても見直した方がいい、という意見もある。ちょうど今年度から生涯学習社会づくり推進計画の新しい計画が策定されたこともあり、来年度以降はこの評価方法についても検討していく必要があると考えている。
委員長	例えば、本来令和3年度の目標というのは、令和3年度の当初の事業目標値を書いてもらうべきではないかと思う。その右隣の令和3年度状況にコロナ関連の情報を記載し、令和3年度の目標値というのは前年度に全てそれを承認したものを書いたほうがわかりやすいのではないかと。
委員	ちょっと仕様もない事かわからないが、「住みよいまちづくり講座の推進講座」で、7学区20回で参加人数が872名ということについて。私どもの地域のコミセンの収容人員が昨年度30名ということになっている。他の地域では大きな会場を持たれているかわからないが、20回開催の30名参加だったら延べ600人だということになる。地域の会場によって大きさが違うと思うが、市の方から最大人数は半分と聞いていた。そこら辺は市としてどうなっている？ それと他の地域の講座に行ったことがあるが、担当部署と書かれているのは、それはその部署の業務であり、仕事ではないのか。いろんな事業もあるが、担当の課のこれは仕事の一環じゃないですか。そうしたら、本来なら達成度を上げてもらわなければならないのではないのか。
事務局	こちらの目標値が設定されたのが、平成28年の旧計画から旧計画に基づいているので、当時はコロナ禍のことなど全く考慮せずに計画したものをそのまま掲載しているのが原因だと考えられる。 今回、今年度から新たに計画を策定し直したので、コロナ禍を踏まえた目標を立てて、来年度からになるが、見やすい表を作っていきたいと考えている。
委員	人生伝承塾については何人登録するかが目標設定されているが、これは登録数ではなく登録されている方をいかに活用するか、というところが本質ではないのか。50人新規登録できたとしても活用されたのが2、3人ではこの事業の意味が無いように思う。
事務局	(3) 部会について 部会について説明。
委員長	説明について、意見・質問を求める。
委員	例えば今のコロナはどこから来たか、ということを考えると自然からだ。自然を人間がどれだけ破壊しているじゃないかということで、一つの病気をとらえても地球の健康状態等を人間の健康状態を一括して考える、今までは子どもと年寄り、女と男、と分割してそれぞれ議論をして、そして結局収拾がつかないという結末を迎えている気がする。迎えている気がする。学校問題、社会問題、学校教育、社会教

	育の事柄もワンヘルスの視点が必要なのではないかな。
委員	ケアをしなければならない子供がどんどん増えてきている、そのケアに一生懸命なるのもわかるが、なんで増えるのかという観点が足りない。将来はもっと増えるかもしれない。 じゃあこういうふうに対処してみようという提案が出てくるときに社会教育というのは、どう機能するのですか、というふうに私は結びつくと考えている。 そのときに、子供の問題行動する人が増えていくという、そういうことを頭に置いて考えなければならない。
委員	かつては、仕事終わった人がその後の時間を利用して何かするとか、女性が家に閉じこもってないで何かをしているとか、そういうものが社会教育の大部分のような気がしていたが、今の時代はそんなもんじゃない。 全然違うのではないかな、というふうに捉えていかなければならない。それを頭の片隅に置いておかないと、家にいるおじいちゃんを引っ張り出したらそれで済む、というわけではなくなった。そういうふうに感じてしょうがないですが、子供たちの学習は学校に全部任しておけばよい、とはいかなくなっている。 そうすると、私は、何を勉強し考えなければならないか、理解に繋がる。何かこういうところ、いろんな切り口があると思うのですが、そんな具合で課題について考えていけばよいのではないかな。
委員	全部の保護者の話を聞いているわけではないので、何とも言えないが、PTA も昔は皆さん入っていただいて、みんなで活動するという状況だったのが、今やとある中学校ではたくさんの PTA 会員がやめてしまわれて、PTA 活動自体ができなくなってきている。PTA 連合会でも「子供たちのために」という事が当たり前という感じでやってきていたのが、お母さんたちのお話を聞くと、仕事で忙しくて会議まで出られないとか、母親同士の付き合いが面倒くさいとか、いろんな意見があり、私自身も「会員として戻ってきてくれないか」と声がけをしているところだ。風潮として、学校任せの傾向があり、私としては学校の先生と一緒に保護者も子供を見守っていった、子供たちのために何ができるのかを考えていける貴重な時期と考える。中 3 までのあと少しの間なのでもう少し会員をやってほしいと考えている。昔はもっと地域みんなで、例えば隣のおばちゃんに怒られたとか、友達のお母さんに注意されたとか、あったと思うのですが、私自身も今そういうことをしていない。今の親世代が非常に忙しく、子供たちのために使う時間自体が減っていたり、PTA をやめたいといった方が増えていたりするのも、自分の時間に夢中な感じがあるからだと思う。 それでもずっと子供たちを見ていきたいと思うので、ずっとお声がけはさせてもらっている。保護者全般としては、PTA をやめたいとか、役員のこととかは自分たちの事ばかりで、子供たちや先生に何かあった時に、ちょっと柱になるような保護者が徐々に減っているかなという印象がある。皆さんに、「子供たちのために」と言ったら、すごく脅しをかけているようで実際嫌だけれど、自然とそう思ってもらえる方が一人でも増えていったらなと思っている。
事務局	4. 連絡事項について 連絡事項について説明。
委員長	説明について、意見・質問を求める。→意見なし 5. 閉会 副委員長挨拶